

2021年度第1回函館競馬特別レース名解説

<第1日>

○臥牛山特別

臥牛山（がぎゅうざん）は、函館山の別称。標高334m。名は、牛が寝そべっているように見えることに由来する。亀田半島との間に陸繋島を形成し、南端に大鼻岬、東端に立待岬がある。山から望む夜景はナポリ、香港とともに世界三大夜景のひとつに数えられている。

○函館日刊スポーツ杯

日刊スポーツは、日刊スポーツ新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同紙の北海道版を発行している、北海道日刊スポーツ新聞社より寄贈賞を受けて実施されている。

○洞爺湖特別

洞爺湖（とうやこ）は、北海道南西部にあるカルデラ湖。名は、アイヌ語の「トヤ（湖畔）」に由来する。支笏洞爺国立公園に属し、周囲には有珠山、昭和新山などがある。平成20年には、主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）が開催された。

<第2日>

○檜山特別

檜山（ひやま）は、北海道南西部の振興局。離島の奥尻町を含む全7町で構成され、渡島半島の日本海沿いに位置する。同局にある江差町は、かつてニシン漁業が盛んで、特に江戸後期から明治にかけての繁栄は、「江差の五月は江戸にもない」と謳われた。

○巴賞

巴（ともえ）は、水が渦巻くような模様。渡島半島南端にある函館湾は、その形が巴状になっているところから「巴湾」とも呼ばれる。

○HTB杯

HTBは、札幌市に本社を置く北海道テレビ放送の略称。昭和43年開局で、ANN（テレビ朝日）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○下北半島特別

下北半島（しもきたはんとう）は、青森県北東部、津軽海峡に斧の形に突き出した半島。西に張り出す半島の主部には日本三大霊山のひとつに数えられる恐山がある。恐山のカルデラを中心とする一帯は、下北半島国定公園に属する。

○デルマーサラブレッドクラブ賞マリーンステークス

本競走は、デルマー競馬場との間で実施される交換競走。

デルマー競馬場は、アメリカ合衆国カリフォルニア州デルマーに位置するアメリカを代表するリゾート競馬場。函館競馬場と同様、スタンドから海を臨むことができる。

マリーン（Marine）は、「海の」「海産の」「航海用」を意味する英語。

○駒ヶ岳特別

駒ヶ岳（こまがたけ）は、北海道渡島半島東部、内浦湾を臨む成層火山。南麓に大沼・小沼・蓴菜（じゅんさい）沼などの堰止め湖、南東麓には鹿部や留ノ湯などの温泉地がある。

<第4日>

○津軽海峡特別

津軽海峡（つがるかいきょう）は、本州と北海道の間の海峡。津軽暖流が西から東へ流れている。海底下約100mの地中には、全長53.85km（海底部23.3km）の青函トンネルが通っている。

○五稜郭ステークス

五稜郭（ごりょうかく）は、函館市にある日本で最初の西洋式平城跡の通称。名は、外形が星のような五稜形をしていることに由来する。箱館の開港とロシアの南下政策などに対応するため、箱館奉行所として蘭学者・武田斐三郎が設計し、江戸時代末期に完成した。戊辰戦争最後の戦いである箱館戦争の舞台となった。現在は五稜郭公園として整備されており、桜の名所としても有名。国の特別史跡に指定されている。

○函館道新スポーツ杯

道新スポーツは、北海道新聞 HotMedia が発行しているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第5日>

○湯浜特別

湯浜（ゆのはま）は、函館市南西部の地名。名は、湯の川温泉の海岸部であることに由来する。南は津軽海峡に面し、国道 278 号が東西に走る住宅地域。昭和 11 年に現在の湯浜町となった。

○函館 2 歳ステークス（GⅢ）

本競走は、函館競馬の 2 歳チャンピオン決定戦として昭和 44 年に創設された重賞競走。平成 9 年に札幌と函館の開催日程が入れ替わったことにより、世代最初の重賞競走として、早期デビュー馬が目標にするレースとなっている。

○かもめ島特別

かもめ島は、北海道南西部、江差町にある海拔 20m、周囲約 2.6km の小島。名は、かもめが羽を広げたように見えることに由来する。檜山道立自然公園の特別区域に指定されており、海水浴・釣り・キャンプなどを目的とした観光客が多く訪れる。

<第6日>

○恵山特別

恵山（えさん）は、函館市東部、渡島半島南東端にある二重式成層火山。標高 618m。太平洋に突き出すように位置する活火山で、現在も噴気活動が見られる。名は、アイヌ語の「イエサン（火を吹き溶岩が流れ落ちる）」に由来するという説がある。

○渡島特別

渡島（おしま）は、北海道南西部にある半島、また同半島南部の総合振興局。かつては松前藩の所在地でもあった。道内では温暖な地域で、その気候を生かしたトマトやかぼちゃなどの園芸作物の生産が盛んである。

○サマー2000シリーズ農林水産省賞典函館記念（GⅢ）

全5戦で実施されるサマー2000シリーズの第2戦。

本競走は、昭和40年に2,400mのハンデキャップ競走として創設された重賞競走。43年に2,000mとなり、平成6年から別定重量戦、9年より再びハンデキャップ戦で実施されている。

函館（はこだて）は、北海道南西部、渡島半島の南東端にある市。名は、アイヌ語の「ウス・ケシ（湾の端）」から宇須岸と呼ばれていた地に、蝦夷地へ逃れてきた津軽の豪族が館を建て、これが遠方から見ると箱の形に見えたことに由来する。イカに代表される漁業が盛ん。西洋建築群をはじめとする豊かな景観を呈し、観光地としても人気がある。

○湯の川温泉特別

湯の川温泉（ゆのかわおんせん）は、函館市南西部にある温泉。登別温泉、定山溪温泉とともに北海道三大温泉のひとつに数えられる。箱館戦争では、旧幕府軍の幕臣・榎本武揚が傷病兵を湯治させた。

<第7日>

○奥尻特別

奥尻（おくしり）は、北海道渡島半島の西方にある面積約143km²の島。名は、アイヌ語の「イクシュン・シリ（向こうの島）」に由来する。古くから水産業が盛んで「夢の島」「宝の島」とも呼ばれる。オホーツク文化の南下を示す青苗砂丘遺跡をはじめ、縄文時代早期から擦文時代にかけての遺跡や遺物が発見されている。

○噴火湾特別

噴火湾（ふんかわん）は、内浦湾の別称。渡島半島に三方を囲まれた円形の大きな湾で、名は周囲に活火山が多いことに由来する。イルカ、ホエールウォッチングが楽しめることで有名。また、ホタテ貝の養殖やサケ、スケトウダラ漁が盛ん。

○TVh杯

TVhは、札幌市に本社を置くテレビ北海道の略称。平成元年開局で、TXN（テレビ東京）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○北海ハンデキャップ

北海（ほっかい）は、日本列島北方の海域を指す呼び名。かつての五畿七道である東海道や南海道に倣う形で明治2年に蝦夷を北海道と改称した。

○立待岬特別

立待岬（たちまちみさき）は、函館山南麓にある岬。かつては異国船を監視する要所であった。岬に至る山道には石川啄木一族の墓があり、またその先には宮崎郁雨、与謝野鉄幹・晶子夫妻の歌碑がある。好天時には、津軽海峡を一望する絶景を見ることが出来る。

○UHB杯

UHBは、札幌市に本社を置く北海道文化放送の略称。昭和47年開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第9日>

○八甲田山特別

八甲田山（はっこうださん）は、青森県中央部、奥羽山脈北端にある火山群の総称。最高峰は標高1,585mの大岳。名は、「神の田」と称される湿原が、北八甲田八峰の山上各所にあることから「八神田」と呼ばれていたものが、「八甲田」と変わったことに由来するという説がある。スキー場としても有名で、冬には見事な樹氷を見ることができる。山の麓には酸ヶ湯・城ヶ倉・谷地などの温泉地がある。日本百名山のひとつ。

○美利河特別

美利河（ぴりか）は、北海道南西部、瀬棚郡今金町東北部にある地名。名は、アイヌ語の「ピリカ・ベツ（美しい川）」に由来する。

○STV杯

STVは、札幌市に本社を置く札幌テレビ放送の略称。テレビは昭和34年開局で、NNN（日本テレビ）系列、ラジオは37年開局でNRN（文化放送・ニッポン放送）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第10日>

○長万部特別

長万部（おしゃまんべ）は、北海道南西部の町。名は、アイヌ語の「オシャマンペ（カレイ・ヒラメがたくさんとれる川口）」に由来するという説がある。沿岸漁業や酪農が盛んで、「かにめし」が特産品として有名。

○横津岳特別

横津岳（よこつだけ）は、北海道南西部、亀田郡七飯町にある火山。恵山道立自然公園に属し、標高は1,167m。ハイマツやコケモモ、シラタマノキなどの約400種の樹木や草花が分布している。

○北海道新聞杯クイーンステークス（GⅢ）

本競走は、昭和28年に創設された重賞競走。当初は東京競馬場の芝2,000mで3歳牝馬限定戦として実施されていたが、平成12年より開催場が札幌競馬場に移され、出走資格も3歳以上牝馬限定戦に改められた。

クイーン（Queen）は、「女王」「王妃」を意味する英語。

北海道新聞は、北海道新聞社が発行する日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○竜飛崎特別

竜飛崎（たつびざき）は、青森県津軽半島北端、津軽海峡に突出する岬。対岸にある北海道の白神岬と青函トンネルによって結ばれている。

<第11日>

○八雲特別

八雲（やくも）は、北海道南西部にある日本で唯一太平洋と日本海の両方に面している町。遊楽部川下流の八雲平野は北海道の酪農先進地域である。また、北海道を代表する土産品「木彫りの熊」発祥の地でもある。

○駒場特別

駒場（こまば）は、函館市南西部の地名。函館競馬場の所在地。明治8年に催された函館招魂社（現・函館護国神社）の祭典競馬が、函館における競馬の始まりとされる。その後、29年に現在の駒場町に競馬場が建設された。

○札幌日経オープン（L）

日経は、東京と大阪に本社を置く日本経済新聞社が発行する日本経済新聞の略称。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第12日>

○松前特別

松前（まつまえ）は、北海道南西端にある半島、また同半島にある町。江戸時代には、最後の日本式城郭として築城された福山城（松前城）を中心に、日本最北の城下町として栄えた。北海道の郷土料理である松前漬けや、松前公園の桜が有名。

○潮騒特別

潮騒（しおさい）は、潮が満ちるときに寄せ来る波が立てる音。「しおざい」ともいう。函館競馬場は、JRAの中で唯一スタンドから海を臨むことができる競馬場である。

○エルムステークス（GⅢ）

本競走は、平成8年に『シーサイドステークス』の名称で創設された重賞競走。第1回は函館競馬場で実施されたが、9年に札幌と函館の開催日割が入れ替わったことに伴い、札幌競馬場での開催となり、『エルムステークス』に改称された。

エルム（Elm）は、ニレ科ニレ属の植物の総称。日本ではその中でも特にハルニレを英名（Japanese Elm）からエルムと呼ぶ。ハルニレは沖縄を除く日本全土に分布するが、特に北日本に多く、街路樹や公園樹に用いられている。花言葉は「信頼」「高貴」。